

第3回広島市スポーツ振興計画見直し検討部会議事資料に対する委員意見

○議事資料1

委員	意見要旨	対応案(事務局)
崎田委員	OP1 1-(2) 「2020年東京オリンピック・パラリンピック」は正式名称か。議事資料1では、2020年が表記されていない。また、他の箇所の年代表記は、「和暦(西暦)」となっている。	○ 大会正式名称は、「第32回オリンピック競技大会」、「東京2020パラリンピック競技大会」である。大会通称として、「東京2020オリンピック競技大会」、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」などがある。この度の計画見直しに当たっては、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」を使用することとしている。なお、議事資料1においては、省略して記載している。
東川部会長	OP1 1-(1)-ア 「通年でラジオ体操を行うことができる」を、「通年でラジオ体操等ができる」に修正する。 OP1 1-(1)-ウ 「(略)スポーツ器具等を設置する。」を、「(略)スポーツ器具等の設置等により運動やスポーツができる環境にする。」 なお、健康寿命の延伸については、健康福祉局関係の部局でも取り組んでいると思うので、そこの連携を重視し、効果的な取組が必要と思う。	○ 左記のとおり修正する。 ○ 左記のとおり修正する。 なお、健康福祉部局と連携して効果的な取組の必要性について、次のとおり追記する。 「(1)健康寿命の延伸について」の12行目、「現行計画において、(中略)今後は、健康福祉部局と連携して、これまで以上に、特に健康寿命の延伸を目標とした取組を効果的かつ効率的に推進することとする。」
山下委員	OP1 2-(2)-イ 国体の広島県の成績は、5年前の9位から12位、15位、18位と後退し、今年21位に終わった。このことは、スポーツ王国広島として大いに恥じるべき醜態であり、今回の見直し作業において、これらの現状を打破する必要がある。 数値目標3について、事務局の変更案は、「広島市選手(ふるさと選手)の割合を70%以上にします。」であるが、 <u>広島市選手が70%以上の出場をクリアしても、国体での広島県の成績が大幅に向上するとは限らないことに着目すべきである。</u> したがって、現在実施している施策の効果として、 <u>広島市選手70%以上にすることは必要であるが、年々広島市選手の入賞する率の向上を目指すことを訴える必要があると思う。</u> 以上のことから、数値目標3の表現を「(略)70%以上とし、前年度以上の入賞者を輩出する。」等の明文化をする。 出場者率と入賞者数(成績の向上)をセットで明記することで、各施策の実施のモチベーションの向上に寄与し、広島県の成績向上に繋がる。	○ 「前年度以上の入賞者を輩出する。」ことについて、計画に明記する場合、このことを達成するための具体的な事業展開についても計画に明記する必要があると思われる。 広島県は、広島県スポーツ推進計画において、「国民体育大会男女総合成績において、8位以内の入賞」という目標を掲げており、国体の成績の向上については広島県が主体となって行うものと考えている。国体の成績に関して、広島市独自の取組を実施することは、競技団体が行う選手強化の面からも難しいと思われる。 今後は、将来有望な選手を発掘し、早くから広島県の競技団体に繋ぎ育成する体制を構築することを強化していきたい。

○議事資料2

委員	意見要旨	対応案(事務局)
崎田委員	OP1 第4章-2-(1)-イ-(7) 「健康寿命の延伸に取り組めます。」に、「スポーツ・レクリエーションに親しむことを習慣づけるため」のようなスポーツとの関連を示唆した方が望ましい。議事資料1で提示している。 OP3 第4章-2-(1)-キ-(7) 「市民にとって身近な公園等へのスポーツができる器具等の設置について」に、「運動」を追加した方が望ましい。(エ)では「運動やスポーツができる運動広場」となっている。 OP5 第4章-2-(4)-ウ-(カ) 「広島に相応しいサッカースタジアム」について、「広島市」なのか「広島県」なのか、あるいは「世界から見た広島」なのかを明確にした方が望ましい。	○ 健康寿命の延伸は、子どもから高齢者まで各年代に応じて、健康づくり・体力づくりを行うことによって成果が現れるものであるから、当該項目のタイトル「健康づくり・体力づくりに向けたスポーツの振興」を、「イ スポーツ・レクリエーションに親しむことを習慣づけるための健康づくり・体力づくり」に修正する。 また、「ライフステージに応じた健康づくり・体力づくりのための事業の実施」を、「ライフステージに応じた健康づくり・体力づくりによる健康寿命の延伸のための事業の実施」に修正する。 なお、「メタボリックシンドローム(略)健康づくり事業を実施し、健康寿命の延伸に取り組めます。」は、現行計画どおり「メタボリックシンドローム(略)健康づくり事業を実施します。」にする。 ○ 「スポーツができる器具」の直前に「運動や」という文言を追記する。 ○ 現在の2つの候補地は広島市にあるが、現在、サッカースタジアムは協議会からの提言をもとに、候補地の絞り込みや事業主体を議論している。 そのもととなる提言は「広島に相応しい」としており、現状のままとさせていただきたい。
東川部会長	OP2 第4章-(1)-ウ-(7) 「障害者・健常者がと共に(略)」を、「障がい者・健常者が共に～」に修正する。日本障がい者スポーツ協会は、「害」から「がい」に名称の表記を変更している。	○ 「障害者」と表記している箇所を「障がい者」に修正する。

○具体的な施策に係る提案

委員	意見要旨	対応案(事務局)
崎田委員	○ふるさと納税 本市のふるさと納税に係る寄付金の使い道に、スポーツ振興に関するものを追加し寄付を募る。	○ ふるさと納税に係る寄付金の使い道について、スポーツ振興に関するもので追加できるものがないか検討する。